# 米倉教公の月間為替市場見通し

## 6 月号

ドル/円予想レンジ　108.00 - 113.20 円

## 『6 月もイベント多く荒れ相場となりやすいので注意！』

ドル/円の6月勝敗表

| 6月の相場 | 始値 | 終値 | 値幅 | 変動率 | 陽線・陰線 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1995年 | 84.55 | 84.60 | 0.05 | 0.06% | 陽線 |
| 1996年 | 108.00 | 109.70 | 1.70 | 1.57% | 陽線 |
| 1997年 | 116.22 | 114.55 | −1.67 | 1.44% | 陰線 |
| 1998年 | 138.55 | 138.70 | 0.15 | 0.11% | 陽線 |
| 1999年 | 121.50 | 121.08 | −0.42 | 0.35% | 陰線 |
| 2000年 | 107.62 | 106.07 | −1.55 | 1.44% | 陰線 |
| 2001年 | 119.25 | 124.42 | 5.17 | 4.34% | 陽線 |
| 2002年 | 124.25 | 119.53 | −4.72 | 3.80% | 陰線 |
| 2003年 | 119.62 | 119.70 | 0.08 | 0.07% | 陽線 |
| 2004年 | 109.42 | 108.82 | −0.6 | 0.55% | 陰線 |
| 2005年 | 108.50 | 110.75 | 2.25 | 2.07% | 陽線 |
| 2006年 | 112.56 | 114.44 | 1.88 | 1.67% | 陽線 |
| 2007年 | 121.71 | 123.14 | 1.43 | 1.17% | 陽線 |
| 2008年 | 105.10 | 106.19 | 1.09 | 1.04% | 陽線 |
| 2009年 | 95.32 | 96.33 | 1.01 | 1.06% | 陽線 |
| 2010年 | 91.24 | 88.44 | −2.8 | 3.07% | 陰線 |
| 2011年 | 81.51 | 80.54 | −0.97 | 1.19% | 陰線 |
| 2012年 | 78.29 | 79.79 | 1.50 | 1.92% | 陽線 |
| 2013年 | 100.41 | 99.14 | −1.27 | 1.26% | 陰線 |
| 2014年 | 101.85 | 101.32 | −0.53 | 0.52% | 陰線 |
| 2015年 | 124.05 | 122.47 | −1.58 | 1.27% | 陰線 |
| 2016年 | 110.69 | 98.98 | −11.71 | 10.58% | 陰線 |
| 平　均 | | | −0.52 | 1.84% | 11勝11敗 |

**★6 月も政治リスクと地政学リスクに注意！**

1995 年以降の過去 22 年間のドル/円では、11 勝 11 敗と始値から終値で陽線なることがほぼ 5 分 5 分の確率となっている。ただ過去 4 年間は陰線引けとなった。一方、値幅での平均値は 0.52 円の円高となっている。また、変動率は 1.84%となっている。昨年は英国の国民投票による EU 離脱の結果にネガティブサプライズ的なリスク回避の動きが強まり、11.71 円の円高となった。今年も 6 月 8 日に英国では総選挙が実施される。保守派が有利とみられていたが、最新調査では過半数に 16 議席届かない可能性も出てきており、昨年に続きリスク回避に注意が必要。また、14 日の FOMC では、利上げが実施されるとみられているが、材料出尽くしの円高になりやすいので注意。

**※この勝敗表は単純に終値から始値を引いた数値となっている。また陽線を勝ち、陰線が負けとした。**

**★ドル/円週足では抵抗ラインに挟まれレンジ相場！**

週足チャートでは、上値では 13 週線の 111.53 円が、下値では 200 週線の 110.70 円が抵抗ラインとなっており、狭いレンジ内での動きとなっている。上抜けした際は、25 日線がレジスタンスラインとなりやすい一方で、下抜けしても 75 日線がサポートラインとなりやすい。また、週足ストキャスティクス・スロー（パラメータ：14、3、3、20、80）は、%K：41.70、%D：50.79 と%K と%D がデッドクロスし、%K と%D はかい離幅を拡大しながら下向きとなっている。ロウソク足でも前週のロウソク足に対して、上値・下値切り下げとなっており、下落基調が維持されている。今週は米雇用統計など重要経済指標が公表されることから、週末にかけて値動きが激しくなりやすい。中期的には、下落基調となっていることから注意。ただ、75 日線の 108 円半ば前後では下げ止まりそう。

本レポートについての注意事項は巻末をご覧ください。必ずご確認ください。

★まとめ

6 月も幾つもの重要イベントが予定されている。2 日の 5 月米雇用統計では、13-14 日に開催される FOMC の利上げを織り込む動きとなりやすい。昨年 12 月と今年 3 月の利上げ直近では、米長期金利の上昇を背景に円安傾向となった。しかし、実際利上げした後は、材料出尽くしから長期金利低下にともなってドル安・円高となった。今回も FOMC の直前まで円安が進むようならば、同様の動きとなりやすい。6 月 8 日には、英総選挙が実施されるが、記憶に新しいのは昨年の EU 離脱を問う国民投票で離脱が決定し、ネガティブサプライズとなったことだ。今回もメイ首相が率いる保守党が圧勝するとみられていたが、最新の調査では過半数の議席と取るには 16 議席足りないなど報道されている。野党支持率の差も接近してきた。そういう意味では、選挙が終わるまでは油断できない。また同日に ECB 定例理事会が開催される。一部には出口戦略に向けた動きが出てくるのではないかとの見方もあり、ユーロに関する波乱要因となりやすい。25 日には朝鮮戦争勃発日となり、7 月 27 日まで北朝鮮では反米月間となる。そのタイミングのなか、日本海域でカール・ビンソンとレオナルド・レーガンの原子力空母が軍事演習するなど、地政学リスクが高まる可能性が高い。さらに、日米では政治リスクも高まっており、今後の動向次第ではリスク回避の動きにもなりやすい。など 6 月は荒れ相場となる可能性もあるので注意が必要となる。

★6 月の主な材料

・06 月 XX 日：コミー元 FBI 長官・議会証言
・06 月 01 日：中国 5 月財新製造業ＰＭＩ、米 5 月 ISM 製造業景況指数
・06 月 02 日：ユーロ圏 5 月消費者物価指数、米 5 月雇用統計、米 4 月貿易収支
・06 月 05 日：米 5 月 ISM 非製造業景況指数、
・06 月 06 日：RBA 政策金利公表、ユーロ圏 5 月小売売上高、南ア第 1 四半期 GDP、OECD フォーラム（7 日まで）
・06 月 07 日：豪第 1 四半期 GDP、ユーロ圏第 1 四半期ＧＤＰ・確報
・06 月 08 日：日本 4 月国際収支＆1-3 月期 GDP・2 次速報、中国 5 月貿易収支、ECB 理事会（経済見通し公表）、英総選挙
・06 月 09 日：中国 5 月消費者・生産者物価指数、日経平均メジャーＳＱ、アストロ＝満月、木星の逆行終了
・06 月 11 日：仏国民議会第 1 回選挙
・06 月 12 日：トルコ第 1 四半期 GDP
・06 月 13 日：英 5 月消費者・生産者・小売物価指数、

・06 月 14 日：中国 5 月小売売上高・鉱工業生産・固定資産投資、英５月雇用統計、米 5 月小売売上高・消費者物価指数、米 FOMC 結果、経済及びＦＦ金利見通し公表（議長記者会見）
・06 月 15 日：ＮＺ第１四半期ＧＤＰ、スイス中銀政策金利公表、英 MPC 結果＆議事録公表、トルコ中銀政策金利公表
・06 月 16 日：日銀金融政策決定会合結果公表、NY ダウ・メジャーSQ
・06 月 18 日：仏国民議会第 2 選挙
・06 月 19 日：日本 5 貿易収支
・06 月 22 日：NZ 政策金利公表、EU 会議（23 日まで）
・06 月 25 日：朝鮮戦争勃発日（7 月 27 日まで北朝鮮で反米月間）
・06 月 29 日：米第 1 四半期 GDP・確報値、ブラジル中銀政策金利公表
・06 月 30 日：中国 6 月製造業 PMI、海外企業半期決算末
・06 月 XX 日：米中戦略・経済対話、トランプ政権・貿易不均衡の調査発表（ルール違反があれば対抗措置）

商号：株式会社フジトミ
金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第 1614 号
商品先物取引業者：農林水産省指令 28 食産第 3988 号,経済産業省 20161108 商第 10 号
加入協会：日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会、

■くりっく 365 の売買手数料は 1 枚当たり最大でインターネットスタンダードコースが片道 0 円（税込)、インターネットプレミアムコースが片道 648 円（税込)、コンサルタント取引（対面取引）コース及びコンサルタント取引（対面取引）オンライン併用コースが片道 1,080 円（税込）です。

■くりっく 365 における証拠金の額は、株式会社東京金融取引所が定める為替証拠金基準額で、原則週次で見直されます。その額は通貨ペアによって異なり、個人のお客様の場合最大で約 25 倍のお取引が可能です。
【くりっく 365－為替証拠金基準額の算出方法】
金融先物取引所が定める為替証拠金基準額は以下の計算式に基づき、算出致します。
計算式：為替証拠金基準額＝取引単位（元本金額）×4%×（5 取引日の為替清算価格平均値）

■「くりっく 365」には、以下のリスクがあります。
【価格変動リスク】
くりっく 365 は、取引する通貨の価格の変動に伴い差損が生じる場合があり、元本や収益が保証されるものではありません。建玉を維持するために追加で証拠金を差し入れる必要が生ずる場合があります。また、差入証拠金以上の損失が生ずる場合があります。

【レバレッジリスク】
くりっく 365 は、取引の額が預託された証拠金に比して大きくなるため、価格変動リスクその他のリスクがその比率に応じて増幅されます。レバレッジにより、その取引について必要となる証拠金の最大２５倍までのお取引を行うことができます。

【信用リスク】
当社は、東京金融取引所を相手方とした「清算制度」に参加しており、お客様の証拠金は、全額取引所が区分管理しているため、原則として全て保全されています。しかし、当社の信用状況の変化等により支払いが滞ったり、破綻した場合には、返還手続きが完了するまでの間に時間がかかったり、その他不測の損失を被る可能性があります。

【システム障害リスク】
当社及び東京金融取引所のシステム、又はお客様、インターネット業者、東京金融取引所の間を結ぶ通信回線等に障害が発生した場合には、相場情報等の配信、発注・執行等が遅延したり、不可能になることがあり、その結果、不測の損失が発生する可能性があります。

【税制・法律等の変更リスク】
税制・法律又はその解釈等が将来変更され、実質的に不利益な影響を受ける可能性があります。

【金利変動リスク】
取引対象である通貨の金利が変動すること等により、保有するポジションのスワップポイントの受取額が減少、又は支払額が増加する可能性があります。ポジションを構成する２国間の金利水準が逆転した場合等には、それまでスワップポイントを受け取っていたポジションで支払いが発生する可能性もあります。また、一部の通貨においては、外国為替市場における当該通貨の需給関係等の影響を受けて、金利変動によらずにスワップポイントの増減や受払いの逆転が生じたり、場合によっては、金利の高い方の通貨の買いポジションでスワップポイントの支払いが生じる可能性があります。

【流動性リスク】
くりっく 365 で提示する為替レートには価格差（スプレッド）があります。くりっく 365 では、マーケットメイカーが買呼値及び売呼値を提示し、それに対してお客様が注文を発注して取引が成立する方式を取っています。状況（天変地異、戦争、政変あるいは為替相場の激変等）によって、マーケットメイカーによる買呼値や売呼値の安定的、連続的な提示が不可能または困難となることがあり、その結果、想定する価格で取引ができないなど、お客様にとって不測の損失が生じる可能性があります。また、一部の通貨において母国市場等の休業の場合には臨時に休場することがあります。更に、当該国の為替政策・規制による他通貨との交換停止や外国為替市場の閉鎖の措置がなされるなどの特殊な状況が生じた場合には、特定の通貨ペアの取引が不能となる可能性もあります。なお、平常時においても流動性の低い通貨の取引を行う場合には、希望する価格での取引ができないなどの不利益を被る可能性があります。

【コンバージョンリスク】
クロスカレンシー取引においては、決済が当該通貨ではなく円貨でなされることから、決済時に当該通貨の為替リスクの他に円との為替リスクがあります。

【ロスカットのリスク】
相場の変動により、有効比率が当社の定める基準以下となったことを当社が確認した場合、お客様の意思に関わらず、当社はお客様の全ての未約定注文の取消及び全ての建玉の決済注文（ロスカット注文）の発注を行います。
ロスカットの場合でも、相場の急激な変動により損失の額が差し入れた証拠金の額を上回る可能性があります。

【情報リスク】
当社からご提供させていただく情報は、くりっく 365 の取引の参考としていただく資料です。その記載情報は、信頼性、正確性、完全性において保証されるものではございません。また、情報内容も予告なしに変更することもあります。

【その他】
取引所為替証拠金取引の売買は、クーリング・オフの対象とはなりません。取引所為替証拠金取引に関しましては、金融商品取引法第３７条の６の規定の適用対象とはなりませんので、ご注意ください。

※くりっく 365 は、株式会社東京金融取引所の登録商標です。